

正会員事務所のスタッフ向けに勉強会を開催

—次世代の建築家とJIAをつなぐ一助になれば—



北海道支部
法人協力会 総務委員長
弘田七重

北海道支部の法人協力会は活動が大変活発で、正会員との親睦会の他にさまざまな勉強会を開催しています。中でもとりわけ好評なのが、この「正会員の事務所スタッフ向け勉強会」です。日常の業務に追われるスタッフたちを正会員が送り出し、勉強+息抜き+横の繋がりを持ってもらおうという目的で2014年から始まりました。正会員向けの勉強会やセミナーはいくつもあります。次世代の建築家がJIAと関わるきっかけとしても大変有効な行事でもあります。

残念ながら正会員は参加不可なため、私は詳細は把握していません。

よって、協力会総務委員長の弘田七重氏に解説をお願いすることといたしました。

北海道支部 支部長
遠藤謙一良



COLONNADE

■新しい企画の模索

法人協力会総務委員長の弘田より、ご報告させていただきます。

きっかけは、マンネリ感を打破したいと新企画を検討しているときでした。正会員の方にヒントを求めたところ「事務所にこもりがちなスタッフたちに勉強や経験の機会を与えてほしい」という声をいただいたのです。そ

れまで正会員の事務所スタッフの方との交流は、大きなイベントをサポートしていただいたり、正会員向けのセミナーや親睦イベントに正会員の方に同行して参加いただく程度でした。事務所のスタッフは、将来のJIA正会員候補です。彼・彼女たちに直接アプローチする企画があってもいい、これこそ新しい展開にふさわしいのではと、法人協力会の委員間で話し合い、スタートを切りました。

■声かけには工夫が必要

企画したのは、スタッフ「限定」の勉強会です。勉強会の後には懇親会を用意し、同世代で横の繋がりをつくる機会を設けました。分かりやすく明日にでも役に立つような内容にしようと考え、テーマを「やってはいけない、クレーム事例」とし、法人協力会4社がセミナーを行うことにしました。

多くの方からお申し込みいただけるものと意気込んでいたのですが、参加申し込みの締切日になっても、希望者はほんの2~3名。期待はずれな結果に大いに落胆し、正直、中止が頭をよぎりました。

しかし、スタッフの方にいくら声を掛けても、所長に送り出さなければ参加できないのではと気付きました。スタッフは毎日実務に追われています。仕事を置いて勉強会に参加するには、所内の理解と後押しがないと難しいでしょう。実際聞き込みをしてみると、この企画自体ご存じない方が少なくありませんでした。

そこで締切日を延長し、正会員の方に本勉強会の目的



2016年の勉強会会場



2016年の懇親会の様子

や意図を説明して回り、事務所のスタッフの方を送り出してくださるようお願いしました。

結果、30名近い方からお申し込みをいただき、無事第1回目を迎えることができました。初めての試みに反省点もありましたが、会場内には熱気が感じられ、本企画の可能性を実感しながら成功裏に終えることができました。

■テーマは毎年変えて

多くの方に関心をもっていただけるよう、そして日常では聞けない内容をお届けできるよう、毎年テーマを変えて企画しています。例年、法人協力会の中から発表企業を募集していましたが、5回目となった2018年は、初めて外部から講師をお招きしました。昨年、北海道は台風と地震の猛威に晒された年でした。停電が長引き、エネルギーに対する不安を感じながら過ごした2ヵ月後に、本勉強会の開催が決まっていました。そこで、「災害に向き合い、改めて建築と都市について考える」というテーマを掲げ、ZEB、スマートコミュニティ、BEMS・AEMS、再生可能エネルギー、分散電源などを研究テーマとされている、北海学園大学の小柳秀光教授に講義をお願いしました。タイトなスケジュールの中での方向転換でしたが、我々法人協力会も含め、ぜひ聞いておくべき講義だと感じました。専門性が高く少々難しい内容ではありましたが、この年に開かれるべき会になったと思います。

■横の繋がりをつくっていききたい

本勉強会が他の企画と絶対的に異なるのは、「正会員の方は参加不可」というルールを設けた点です。スタッフの方限定としたほうが、より新鮮で自由な場になると考えました。結果、勉強会後の懇親会では、担当物件について質問し合ったり感想を述べ合ったりと積極的な交流が見られ、毎年、時間不足を感じるほどです。正直なところ、第1回目を終えてこの勉強会を継続していこうと決めたのは、懇親会での光景がとても魅力的に見えたからでした。法人協力会の中でも、個人的な繋がりが互いの仕事を助け合っています。アドバイスを受けたり仕事のモチベーションを高め合ったり、各々テリトリーは違いますが、JIAという場を活用して、自身の成長に繋がっています。我々と同様に、仕事の苦勞や悩みを打ち明けあえるような、若手の建築家同士を繋げる場になり、同世代の仲間の存在を刺激や励みにして設計業務に取り組んでいただけたら、と願っています。



2018年の勉強会会場

■ようやく5年目を終えて

毎年、参加者の方にはアンケートにご協力いただいています。プログラムについて、会場や日程について、今後希望するテーマについてなどの意見をうかがい、次年度の参考にしています。設問の中に「次回も参加しますか」という問いがあるのですが、9割以上の方が参加したいと回答してくださるので、法人協力会にとって大変励みになっています。

しかしながら、お声がけに苦勞する状況は、5回目を迎えた昨年でも変わっていません。スタッフの皆さんの忙しさは相変わらずで、仕事を置いて参加してほしいなど、我々には到底言えません。正会員の方に後押しいただく必要があると改めて感じています。それでも毎年30名前後の方にご参加いただき、さまざまなイベントの中で上位の参加人数を誇っています。

もちろん、魅力的な内容であることが大前提なことは承知しています。今年はどんなテーマにしようか、開催予定は秋ですけれども、春から構想を練っています。

■JIAが生き生きとした団体であるために

本企画をスタートした際、差し出がましいのは承知の上で、正会員増強の一助になればと思いました。学びや成長の機会を得て、かつ楽しんでいただいて、JIAへの関心を高めてほしいと……。その検証はまだできていませんが、本企画の成長が、若い世代へのアプローチになると思いつけ、今年6年目に突入します。若手不足の懸念は、正会員のみならず法人協力会にも言えることです。JIAが生き生きとした団体であり続けるために、法人協力会として何ができるか毎年模索していますが、間違いなく若いエネルギーの投入が不可欠で、そのためには、正会員と法人協力会がよりいっそう連携して取り組んでいく必要があると感じています。